

第2回 室蘭市観光拠点づくり検討委員会 議事概要

日時：平成29年9月7日（木）14:00～
場所：道の駅「みたら室蘭」多目的室

1. 開会

事務局：本日は、検討委員会に入る前に、当エリア視察を予定している。（資料1説明）それでは実際に見ていただき、当エリアの課題、改善点をはじめ、動線の確認等をしていただきたい。

<現地視察>

2. 委員長あいさつ

委員長：（挨拶）

3. 議題

①道の駅及び周辺の動線について

委員長：利用者目線で見えた場合、各施設間の距離、動線の面で特に感じた点等、意見を頂戴したい。また、今後の施設同士の連携策等、具体的なアイデアがあれば、あわせてお願いしたい。

委員：道の駅と屋台村の動線が気にかかる。まずはここを解消することが活性化につながるのではないかと思う。ここがつながると、エンルムマリーナの方にもつながっていく。

委員長：道の駅から一番近い屋台村の存在がわかりにくい。

委員：屋台村がやってなさそうに見えた。

委員長：今のままでいくと、歩道のほうに一回出なければだめな状況で、間にトイレがあり、そこを回らないとならない。もう少し直線的な動線にさせていただいたらいいと思う。道の駅と屋台村の間にあるトイレは必要か。

委員：別の場所に移しても結構だと思う。

委員長：動線の真ん中にトイレがあって、そのために屋台村を見えなくしているような気がする。検討が必要だと思う。その他、「ゆらら」の方はどうか。

委員：駐車場を拡張し、売店のほうから外に出て、真っすぐ屋台村に行けるような形はとっているが、うまく作用していない。今後どう誘導させていくか検討が必要。

委員長：看板やネオンサイン、のぼりも無くわかりにくい。「ゆらら」があることを事前に知っている人は来るが、はじめての人はついで行こうかという情報が入ってこない。

委員：一時期、「みたら」のアイスクリーム割引とパークゴルフ、「ゆらら」周遊カードをつくったが、観光客は1日でこなせないなので、利用率が低かった。

委員長：水族館への動線はどうか。道の駅からどこを通過して水族館へ行けばよいかよくわからない状態だと思う。

委員：駐車場を通らないと行けない感じがする。

委員長：歩行者用の線を引くなど動線を確保しないと、移動しない。

委員：夏場、水族館に来た方が、帰りに水族館に車を置いて、「みたら」の売店でアイスクリームを食べる方が多い。

委員長：水族館の駐車場より、道の駅の駐車場が大きいほうが両方の施設を使う人が増えるのではないかと。水族館の駐車場を小さくするというのはどうか。

委員：ゴールデンウィークは両方の駐車場が足りなくなる。年間の入場者数の3分の1はゴールデンウィークに偏っている。

委員：水族館の入口はもう少し前のほうがいい。または、駐車場スペースに何か配置できるものがあるか。何か新しいものをつくるとなると市の予算となるか。例えば、ドッグランはどうか。そうすると、もう少し「みたら」寄りに入り口をもってこれるのではないかと。

委員長：設置物が何もなくても、例えば花を植えるだけで寂しくない。

委員：一時期、花を植えたが潮風に負けて育たなかった。

委員長：日陰、木陰、ベンチがあると夏でもゆっくりできてよいと思う。

委員：日帰りの室蘭夜景ツアーを旅行会社が企画し、札幌からバスが月10本位来る。夕食は母恋めしを買ってバスの中で食べている。

工場夜景が売り物なので、夜の観光客対応も大事である。事前に催行日が分かるので、夜景ツアーが来る時だけでも、夕食を提供できるよう営業することも必要。連携して、営業時間を延長してはどうか。

事務局：ツアーバスの団体客が来ることも考慮すると、飲食、物販が一緒だとどうまくいかない。飲食、物販スペースをそれぞれ独立させてはどうか。そうすれば、営業時間の延長等も、その都度対応していけると思う。

委員：厨房を一般のレストラン並みに整備できるか。

事務局：物理的な制限はあるが、きちんとしたものをつくっていきたいと思っている。

委員長：動線がはっきり見えるようにというのは大事なこと。動線をしっかりつくっていききたい。

②観光拠点づくりに向けた具体的な取組について

事務局：（資料2説明）

委員長：具体的な強みとか弱みに基づいて何か取り組み等意見はどうか。

委員：弱みとして、構造上の課題、冬期対策、立地の悪さ、財政状況はどうしようもないことであるが、飲食、物販、情報不足、消費額の低さの部分はどうにかなるかと思う。

消費額の低さイコール物販の機能不足と飲食の機能不足と考えると、やるべきことは、飲食・物販・情報発信の強化だと思う。

情報不足については、道の駅から、屋台村、「ゆらら」、水族館の情報を得られるよう解決し、同時に、動線も整えていくと周遊してもらえるようになると思う。

委員長：営業時間のことが先ほど指摘されたように、これは課題だと思う。

新たに、飲食・物販を見直すと人は来ると思うが、たくさん人が来ると、座る場所や日陰、休む場所がないといった問題も想定される。

各施設間の距離があることが、人が大勢来たときにプラスに働き、動線上に休憩場所が多くあると強みに変わってくると思う。

前回、イベントの話が少しでたがどうか。

委員：ビアガーデンは、商店会の独自事業。近隣住民のみならず、観光客、キャンピングカー客も来る。それをきっかけにいろいろな形で情報が発信できればいいと思っている。

ただ、我々だけの限られた人数でやるとなると、マンパワー的に厳しい。我々独自だけではできないので、いろいろな方と連携してやっていきたい。

委員長：例えば、市内の会社と連携して、マンパワーの部分で協力を得られるような仕組みがあるとよい。

委員：協力してもらえるように、そういう準備はしている。

委員：外でバーベキュー、ジンギスカン等できる場所がないかと尋ねられる。室蘭のダンパラか登別の亀田公園になるので近くにない。

バーベキューコーナー等があると、市民はじめ、観光客も利用できる。もっと言えば、テントが張れる場所なんかがあればとも思う。

委員：昔、オートキャンプ場をつくったらどうかという話があった。

委員：夜景を見て、バーベキュー等をして、滞在型になるのではないか。ただ、管理が大変だと思う。

委員：パークゴルフ場と「ゆらら」で連携してサービス券づくりをしたが利用率が低かった、という話が先ほどあったが、パークゴルフ場の客は温泉に行っていないのか。

委員：地元の人がほとんどで、終わったら帰ってしまう。買い物もしてくれない。

委員長：キャンピングカー客も、パークゴルフ場の客も温泉や道の駅で買い物をしてくれない。

委員：だから、バーベキュー場など整備しても、ごみ、トイレ、水道等の管理等考えるとリスクのほうが大きい。

委員：オートキャンプ場は、パークゴルフが併設しているところが多く、子供向けの、ものづくり体験教室もあると、利用しているようだ。キャンプ場の近くに道の駅があると、道の駅で食材を買ったりして付随効果があるとは思う。

委員：地元の人がほとんど。それでは経済効果は少ない。多目的に遊べる場所があれば、観光客の滞在時間が延びる。

委員長：スタンプラリーはどうか。子どもは、スタンプがあると必ず押しに行く。

委員：まずは、夏期集客を重点的に考えたほうがアイデアが膨らむと思う。

委員：駐車場に入っただけでこのエリア内全体がわかるようなもの、インフォメーションが必要ではないか。

委員：以前、室蘭の風景写真ビンゴカードをつくって、一個ずつ回っていったら穴あけて、一列並んだら何かにかえてあげるだとか、そういうようなコンテンツを提案されたことがある。

インバウンド客向に、忍者のボルタをつくって売ったらどうかといった声もある。

今ある資源をちょっと変えることによって、集客、観光客のおもてなしに使えるようなものがある。

委員：以前、輪西や中央町の寂れたところを室蘭のボランティアガイドが室工大と樽商大の学生に見学させた際、今後この地域をどうしたらいいかと尋ねたら、学生から「室蘭観光の情報不足」を指摘され、SNSでの情報発信やYouTube動画での情報発信を提案された。

例えば、ボルタを使って、市内の景勝地、特産物等をボルタが紹介するという、アニメーションでの宣伝動画はどうかという提案もあった。

委員長：室工大の学生から、「インスタ映え」という言葉をよく聞く。インスタグラムで映えるような写真を撮るような場所を設定すると、SNSで発信しやすいようだ。

インスタ映えする写真が撮れる場所を用意すべきといった提案もあった。

委員：札幌の地下街の情報板に撮りフェスの宣伝広告が出ているが、動画にして、情報発信したら、目立つと思う。

委員長：その他アイデアがあれば事務局までメール等をお願いしたい。

③ターゲットの設定について

委員長：参考資料2、3、4を参照しながら、今後どういう人に来てもらえるのかについて話し合い、ある程度メインターゲットを考えていきたい。

委員長：参考資料をみると、6月の入館者数が減っているが理由は何か。

委員：ゴールデンウィークでお金使うので、6月は休むからではないか。

委員長：6月の集客対策も必要ではないか。6月に何かやったほうが伸びやすい。

委員：冬は閑散期だが、屋台村はほとんど閉鎖しているか。

委員：11月から3月ぐらいまではやっていないようだ。

委員長：冬は、道の駅と「ゆらら」だけの営業か。

委員：マリーナのクルーズは動いている。

委員：冬は閑散期だが50万程度の売り上げがある。せっかくお客さんがきているので、冬場も飲食・物販で何とか底上げをはかれないか。例えばソフトクリームのみならず、温かいメニューも用意できないか。

委員長：冬も飲食ができれば、それなりにお客さんも来ると思う。

委員長：ターゲットを設定する時に何を食べてもらいたいのか、何が食べたいか、どういう飲食が欲しいかといった話はどうか。

委員：観光案内しているときに気づいたのだが、昼間、カレーラーメンは食べられるが、昼に室蘭焼鳥を食べたくても、営業している店が少ない。

事務局：例えば、メインターゲットを大型バスの団体客にする場合、子育て世代にする場合、インバウンド客にする場合では、今後重点的に取り組む点や配慮すべき点がそれぞれ変わってくる。

昨年、じゃらんの協力で実施したアンケート調査結果では、札幌、室蘭市近郊からの客が多く、30代～40代、近郊だと70歳以上の方も多。札幌からの客は自家用車できており、夫婦とカップルで来ている客も多い。飲食や土産物の充実を望む声、あわせて観光情報の充実を望む声も多い。

じゃらんおでかけサイトアンケート調査結果では、室蘭に行ったことがある人に誰と行ったかと聞くと、恋人・夫婦が多く、次いで、家族も多い。

これら資料も参考にさせていただき、メインターゲットへの意見もいただきたい。

委員長：最近、観光バスも入ってくる。リニューアルすると観光バスは増えるか。

委員：増えると思う。

委員長：例えば、40人まとめて商売できたほうがいい。その場合には団体の観光客が入れる場所を2階につくる、その他の家族連れやインバウンド客等の観光客も取りこぼしたくない。

委員：インバウンド客は少ない。ただ、大型客船が年に何回か、夏場に入ったときには、来ることがある。

委員：アンケート調査結果資料、札幌から来ている人で、形態は家族が多いか、夫婦が多いか。

事務局：札幌から来ている人で、一番多いのが40代、次に多いのが、30代と50代。形態はわからない。室蘭近郊から来ている人は、一番多いのが20代。

委員：平日の午後、札幌を出発して、観光バスで夜景を見にくる人達は50代以上が多い。夜景観光バスは高齢者が多い。土日はちょっと変わるが。

委員長：夜景を見に来る人たちも、ターゲットにしてもいい。ただ、夜の営業時間を延ばして、稼いでいく。インバウンド客は、今の段階ではあまり来ていなので考慮しないことでよろしいか。

従来の札幌からの家族連れをターゲットに、食事をしていただけるような体制をつくる。観光バスもターゲットとしていいのではないか。

委員：札幌から来る人は、家族ではなく、夫婦かカップルのような気がする。家族連れであれば、水族館にもきてもらうにする。

委員長：室蘭の人は、道の駅で食事はあまりしないかもしれない。伊達、登別等から来た人なら食事をするかもしれない。ただ、登別、伊達等の近郊の人が、食事をしてもらうパーセンテージは高くないかもしれない。

人数でいくと、やはり夫婦、カップルで来た人が食事をできるようにした方がよいか。

委員：夕日等景色を見ながら食べられるようにするかどうか。

委員長：夫婦は和食、若いカップルだったら洋食を提供するかどうか。観光バスが来たら、室蘭焼鳥も食べたい人が多いし、それは屋台村とすみ分けをして考えていけばいいと思う。

札幌から子供連れはあまり来ないか。室蘭の人は、食わずに帰る。だから、札幌からのカップル、50代以上の夫婦か。登別、伊達近郊の家族連れも、多分、飲食・物販の対象か。ターゲットが広いような気もするが。

事務局：メインターゲットは設定しただけでそれとていうよりは、まずはこういったターゲットに対して優先的に取り組んでいくかということである。

今までの議論をお聞きするとインバウンド客ではなく、札幌、あるいは近郊の夫婦、家族連れか。

委員長：まずは、こういった人をターゲットにということですね。

4. その他

事務局：今後のスケジュールとしては、第3回目は10月上旬～中旬での開催を予定している。次回議題案は、短期的・中長期的見通し、各施設の目指すべき役割・機能、道の駅の配置パターン案を予定している。第4回は11月上旬、第5回は12月～1月の開催を予定している。

委員：道の駅の配置パターン案との、道の駅の内部のことか。

事務局：はい。今日、飲食機能強化の話が出たが、今後どのような配置にしたらよいか、営業時間はどうするかといったことも意見等頂きたい。

委員長：その他よろしいか。それでは事務局にお返しする。

5. 閉会

事務局：（閉会）

以上